

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社 さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑式番館 (ユニット名 2階)
所在地	福岡県久留米市江戸屋敷1丁目11番1号
自己評価作成日	平成30年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	平成30年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、久留米市内でも高齢化、特に高齢者単独世帯が多い地域に平成28年11月に開設し、地域の中の認知症を患われてしまった方々の住む「家」として事業を行っている。ご利用様が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らしていけるように支援しており、日頃の散歩・地域の夏祭りに参加している。ご利用者様の認知症の状況・身体の状況は其々でも、互いが互いを必要とし同じ「いえ」に住む疑似家族として生活を支援しており、数名のドクター及び訪問看護ステーションとの連携により、ターミナル支援・お看取り支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線から入った住宅街に位置し、木造二階建てで一階と二階に各1ユニットを有している。屋内は木材をベースにし調度品や植物を配し、テラスの窓は開口が広い掃き出し窓となっており明るく落ち着きのある、暖かい家庭的な雰囲気づくりが行われている。職員は相互に協力し合い、利用者のことを認知症ということにとらわれず、一人の人として関わりを持ち、当たり前のことを当たり前にして頂くことが出来るケアに努めている。利用者の表情も明るく笑顔で活発に職員とのコミュニケーションが行われている。法人代表者や管理者は地域密着型サービス事業所の役割を十分に理解されており、高齢者単独世帯の多い地域でより一層地域との連携を深め、地域に根差した事業所となることが期待できる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の介護理念は、法人の理念であり、この理念が実践できるよう努めている	法人理念を、毎朝と月に一回のミーティングで唱和している。毎年、事業所の実情に沿った支援目標をミーティングで話し合い決めている。理念に基づき職員は情報の共有をし、利用者を尊重するケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体への加入、校区夏祭りへの参加等、地域との付き合いは行ってはいるものの、今後益々「地域の一員として」交流を深めていきたい	自治会に加入し、地域の行事には利用者全員参加を目標に体調管理等をしている。事業所の行事に地域の子供太鼓や住民の方の参加があった。日々の散歩でも挨拶を交わしたり、離苑があった時に職員が迎えに行くまで地域の方が話し相手になってくれたり、散歩の様子を写真に撮り届けてくれたりして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター開催の認知症サポーター養成講座で講師を務めるとともに、他の事業所と共に地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるのかを模索している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の運営推進会議には、市職員・包括職員は勿論、他の小規模多機能事業所・薬剤師にも入っていただき、各方面からの屈託のない意見を頂戴しサービスの向上に努めている	二ヶ月に一回多職種と家族参加のもと開催している。離苑に備え市の高齢者あんしん登録制度への登録アドバイスをもらったり、誤薬を防ぐため薬剤師に、内服時間毎に分包に色を付けてほしいとの提案をしたりサービス向上に活かしている。今後、近隣にある看護小規模多機能事業所と合同で会議を開催予定である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米介護福祉サービス事業者協議会の理事長を仰せつかっており、グループホームに限らず、久留米市内の事業所の実情、行政としての指導等、協力関係を築けている	代表が行政とのパイプとなり情報の収集や事業所の情報発信を行っている。市のフォトコンテストに事業所で撮影した写真を出展したり、小学4年生を対象にした認知症サポーター養成研修にも協力するなど市町村との協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関、フロアの鍵は施錠しておらず夜間帯のみ施錠している。フロア入り口にはセンサーを設置しフロアからでられるご利用者を引き止めず一緒に同行している	身体拘束に関する研修は年一回行われている。事業所の玄関は防犯のため18時から9時まで施錠をするが、ユニットの入口は常時解錠されており、出入りがセンサーでわかるようにしている。外に出ることを希望される時には付き添い近隣を散歩している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度虐待に対する事業所内での研修を行い虐待防止のため各フロアごとに虐待防止委員会を作り、案を出し虐待を防ぐ取り組みをしている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を苑内で開き学んでいる。ご家族への説明は行っており現在おひとりの方が成年後見制度を利用しご入居いただいている	職員研修は年に一回行っており、現在1名の利用者が制度利用をしているので職員は制度の大まかな内容は理解している。パンフレットはいつでも手に取ることができるように玄関に置いてあり、制度利用が必要と思われる利用者は管理者から家族に随時説明を行い、関係機関も含めて話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、十分な説明を行い納得の上、サービスの利用が開始されるよう努めている。サービスの利用開始時に於いても、気兼ねなく相談いただけるよう声かえを行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず声をかけご家族との信頼関係を築き、意見や要望を言いやすい関係を作っている。家族会資料には市役所介護保険課、国保連の電話番号を記載し、ご家族が意見や要望を外部へ発信いただけるよう努めている	利用者の意見・要望は日頃の関わりの中で把握に努めている。家族からは訪問時にコミュニケーションをとり聞き取りを行っている。最近では定期往診時の結果を教えてほしいとの希望があったため、随時報告の対応に変更した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者が集まり運営会議を定期的に行っており、職員の意見を運営に反映できるよう努めている	日頃から法人代表や管理者に意見が言いやすい関係性ができている。管理者は職員との会食の場を設け関係の構築に努めており、法人代表もその場に参加している。最近では入浴がスムーズに行えるように特殊浴槽を使う利用者と一般浴槽を使う利用者の見直しについて提案し、業務改善を図る等、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては性別・年齢を理由に採否を決定することはない。しかし、高齢者・認知症・介護に対する考え方によっては、採否を決定している	職員の採用にあたっては制限は設けていない。職員は資格取得や自己研鑽のための研修受講は内容により勤務として参加することができたり、受講料の負担も事業所が行うこともある。休みの希望も出ずことができ、職員間での協力関係も築けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に勉強会、外部の研修など参加し研修後は他スタッフへ報告している	年一回、人権研修を行っている。利用者一人ひとりがどのように生きてきたかを大切にシケアを行っている。日々の業務の中でも言葉遣いなど気になる場面を見受けた時は管理者から都度の注意を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会が行う研修及び法人内研修には多くの職員が参加し日々トレーニングを行い、職員それぞれが自己の向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会・ボーリング大会及びその他の研修会、運営推進会議・包括との地域ケア会議などを通じ、地域の他の事業所との交流に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを取りながらご本人が困っている事やニーズを見極め、必要なケアをケアプランに取り入れ実践している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時に施設内を見学してもらいサービスの説明を行い、ご家族からの意見や質問を受け納得、理解していただけるように努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族に意向を聞き、必要となる福祉用具の提案や、リハビリ専門職との連携を取って支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の能力に応じ、家事や掃除など職員と一緒にいき、生活の中での役割を持っていだいています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や変化など状況に応じ、連絡を取り病院への受診などはご家族にもご協力いただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出支援を行い、近所の方も面会に来られている。ご本人が住まわれていた地域の事や今までの暮らしの話題を振り、ご本人の話を傾聴している	家族の訪問が多く受診や食事に一緒に行ったり、利用後も馴染みの美容院に行くなどしている。友人からの手紙や電話などもある。職員と自宅の様子を見に出かけたり馴染みの関係を継続できるように支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション以外でも利用者様同士が会話が楽しめるよう一つのテーブルを囲み、お茶を飲んだり、職員が入り会話を持ちかけ関係を築けるよう配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、年賀状のやり取りは行っている。ご相談があれば支援ができるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中でご利用者様の希望を聞き、月一回のスタッフミーティングでスタッフに周知している	利用開始時に本人・家族から生活の様子など情報を得ている。それを踏まえ、日々のかかわりの中での会話や様子から思いや意向を汲みとるようにしている。また、他の職員から情報を得たり、困難な場合には家族に聞くなど把握に努めている。月一度のミーティングや記録物で職員間での共有を図っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、これまでの生活歴をご家族に書いていただきどのような暮らしをされていたか把握し、会話などに生かしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の食事量、水分量、排泄の様子などは介護記録に記載し、受診、往診、薬の変更などは個別ノートにも記載し現状の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しの時期に、ご本人・ご家族様に意向をお聞きし、ミーティングにてアイデアを出し合いプランを作成している	日頃のかかわりの中で利用者・家族の思いや意向を聞いている。受診や往診時に医師から情報を得て、月一度の会議でケアのあり方など全職員で検討している。未参加の場合には議事録で周知を図っている。3ヶ月に一度モニタリングを行い、利用者の状況の変化に応じ随時介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を介護記録に記載し、個別ノート、申し送りノートも利用している。ミーティングにて情報を共有しプランの見直しに役立っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の要望やニーズへ適切な支援やサービスを日常的に相談している。主治医の指示による訪問看護や訪問マッサージ、セラピーなど利用している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターの方に、運営推進会議に参加していただき、情報交換を行っている。ボランティアの方によるレクリエーションなど生活を楽しめるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医をそのまま利用している方が多いが希望があれば、紹介もしている。主治医へ報告、連絡し日頃の様子もお伝えしている	利用者・家族が希望するかかりつけ医となっている。他科受診を含め家族同行の受診を基本としているが、不可能な場合には職員が代行している。複数の医療機関と関係を築いており、往診するかかりつけ医もある。受診・往診結果については家族と情報を共有し、職員間では個別ノートで結果の共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師が2名勤務しており、口頭は勿論、申し送りノートや個別ノートを使い看護師への連絡・報告を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、病院側と連絡を取りながら情報を交換し早期に退院、受け入れができるように努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族に終末期などの意向をお聞きしている。お看取り期になられた時には主治医や訪問看護ステーションとも情報を共有しお看取りの支援に取り組んでいる	入居時に「看取り指針」に基づき利用者・家族に説明している。今までに数名の看取をしている。医師、看護師、職員、家族など利用者の状況に応じ都度話し合いを行い、方針を共有している。年1回看取りケアについての研修も行い、職員は日々のケアについて看護師などに相談できる体制にある。ソファベットや食事の提供、遠方の家族には入浴も希望があれば可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアにマニュアルを置き、苑内で勉強会を行っている。職員が急変時や事故発生時に、応急手当などの対応ができるように備えている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防の協力の下、避難誘導訓練を行い、災害時に対応できるようシュミレーションを行っている	年2回、昼夜火災を想定し利用者、職員参加のもと避難誘導訓練を実施している。飲料水や食料品、おむつなど3日分程の備蓄がある。自治会や近隣などにも声掛けや、個別に案内配布などして避難誘導訓練の情報提供に努めたが、地域住民の参加までに至っていない。火災、地震を含む災害対応マニュアルは作成している。	地域のより多くの方々に事業所のことを知ってもらおうと同時に、災害時における理解を深めつつ地域との協力体制を築くことが望まれる。災害時対応マニュアルについても近年の気象状況等もあわせて検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様の人格を尊重した声かけを重視している	職員は利用者一人ひとりを尊重しながら対応している。耳元で小さな声でトイレ誘導したり、失禁時、周りに配慮しながらさりげなく対応している。入浴やトイレなどは、ドアや窓をしっかりと締めることで羞恥心や音にも配慮している。記録はフロアの隅で行い、利用者に関する書類は棚に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを工夫し、ご本人様の思いや希望を表し、自己決定できるように支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まってはいるものの、職員の都合を優先せず、ご本人様のペースで過ごしていただけるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台にブラシを置いて整髪をして頂いている。ご自分で出来ない方にはお手伝いしている。その日の洋服をご自分で選んでいただいている。選べない方にはスタッフが好みの服を選びおしゃれの支援をしている。女性の方にはイベントの時にはお化粧をしていただくこともある		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの食べられる力によって調理の仕方を変えている。刻み、ミキサーなど。料理の下ごしらえ、台拭き、お盆拭きなどスタッフと一緒に、食事が楽しみなものになるように支援している	調理師の免許を持つ職員が主に調理を担当し、利用者に好きな物を聞いたり、職員からの情報も得て献立を作成している。週3日の配食も含め利用者の状況に応じ食べ易いように工夫をしている。利用者は職員と一緒に畑の野菜を収穫したり、フードコートでの食事や回転ずしを楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられた量、水分量を記録し、その方に合った支援を行っている。一日の飲水量1,500CCを目標として、脱水などにならない様飲水量が確保できるように配慮している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔に保てるよう、毎食後口腔ケアの支援を行っている。不十分な方には仕上げを行い、ご自分で出来ない方にはスポンジブラシなどを使ってケアしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレには手すりを設置しご利用者様が使いやすいように配慮している。排泄の記録を行い、パターンをつかみその方に応じたトイレ誘導を行い、失敗を防いでいる	職員は利用者の排泄パターンや表情の変化、様子などから声掛けしトイレ誘導している。少し時間をおいて再度声掛けをすることで失敗を減らすように個別に対応をしている。トイレ誘導することでおむつ対応からリハビリパンツになる事例もあり、職員は日々試行錯誤しながら排泄の自立支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便のチェックを行い、食事の内容、水分摂取に心掛け、その方に合った適度な運動も行っている。便秘時は医師や看護師に相談している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングに合わせる事は難しいが、定期的に入浴日を作り、また体調に応じ入浴日は変更している	週2回、10時頃から午前中入浴出来るようになっていいる。入浴を拒む場合は対応する職員や日を改めたり、午後から入浴するなど無理強いしないようにしている。会話が弾んだり、入浴時の気持ち良さから浴槽からなかなか出ようとしなないこともある中で、職員は体調に配慮しながら、個々に沿った支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけフロアで過ごしていただくよう支援しているが本人のADLなど考慮し、希望の方は午後からベッドで臥床していただいている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば一人ひとりの個別ノートに記載し全スタッフに周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(テーブル拭き・洗濯物干し・たたみ)などできる事をしていただき、感謝の声掛けをしている。また、編み物や唄を好きな方がおられるので編み物教室や唄の広場に行かれている方もおられる		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日で地域へ散歩に出かけたり、レクリエーションでゆめタウンに外食や買い物に出かけたりしている。ご家族と買い物や美容室に出かけられることもある	天気の良い日には利用者・職員で近隣を散歩し、地域の方と挨拶を交わしたりしている。利用者、家族に職員が同行し花見を楽しむこともあり、個々に沿った支援をしている。車いすの利用者も一緒に鳥類センターやショッピングセンターに行くなど、利用者一人ひとりが外出を楽しむように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の預り金を事務所にて保管しており、希望に応じて、買い物に職員が同行するなどお金を使えるよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかってくる、ご本人がかけたいと言われるなど希望があればご家族との会話を楽しませている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはソファを置いてくつろげるように、テレビが見やすいことや、気が合う方同志と一緒に話せるようになるなど、席の配置も考慮している。空調の管理にも気を使っている	玄関には利用者の手作り作品を飾り、フロアは観葉植物やゆったりとしたソファを配置し、適度な明るさとなっている。一階にはティーサーバーがあり、コーヒーやお茶を楽しむことができる。トイレ内も利用者が使いやすいように配慮されており、どの共用空間も居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアでは、気の合う方と一緒にできるようテーブル席を配慮し、ソファを置きくつろげる空間になっている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族が持ち込まれた若いころの写真やクッションやぬいぐるみを置き心地よく過ごせる、安心の場になっている	居室には馴染みの寝具や筆筒、テレビなどを使いやすいように配置している。壁面には事業所が準備した温湿計がセットされ、居室の温度や湿度にも配慮することで、利用者が更に居心地良く過ごせるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の居室の名前やトイレの表示は分かりやすく大きく表示し、ADLに合った安全がな生活が送れるように工夫している		